

### 3 経済・活力

7分野のうち、地域の魅力を高め、多くの人が集まり、にぎわいや活力ある地域をつくることにより、基本構想に掲げる将来都市像や基本的な目標（重点目標）の達成を目指します。将来都市像に掲げる「未来へつづく」持続可能なまちとなるためには、今後、経済の低成長が見込まれる中で、工夫をしながら人を呼び込み、まちの活力を維持し、足腰の強い経済基盤をつくる必要があります。

3つ掲げている基本的な目標（重点目標）の中でも、特に「地域の魅力や特性を活かし、人が集う活力あふれるまち」の実現に向け、人を呼び込み、にぎわいのあるまちの整備や、魅力ある産業の活躍を促進します。

#### (1) この分野で将来目指すべき方向性

##### ★人を呼び込み、にぎわいのあるまちをつくる

これまでのような、本市の顔である柏駅周辺の中心市街地だけに依存した集客構造は、吸引力の低下等から困難となってきています。そのため、市内の全域から魅力ある資源を最大限に活用し、多様なニーズに応えることで人を呼び込み、交流人口<sup>77</sup>の創出による経済やまちの活力の維持・発展を目指します。

吸引力が低下してきている中心市街地では、基本的な目標（重点目標）の達成に資するような、親子や高齢者に快適で優しい都市空間作り等、長期の視点に立った本質的な対策を進めます。

公・民・学連携による先導的（先進的）なまちづくりが進められている北部地域では、地域の魅力を発信して、高質な住宅地に加え企業や研究機関等の立地を促し、求心力と創造的な交流にあふれ、職住が一体となった自立した新しい都市モデルとして、まちの活力のけん引役を目指します。

また、自然あふれる地域資源があり、農とのつながりも深い東部地域では、手賀沼の活用による交流人口の創出に取り組みます。

##### ★魅力ある産業が活躍するまちをつくる

事業を興し展開する場や働く場としての魅力も高め、事業所や働く人の本市への集積を目指すことも非常に重要です。インパクトのある雇用の受け皿を創出あるいは拡充するため、魅力的な産業・事業所等の育成を進めます。中でも、税金や市民の雇用等様々なメリットをもたらす付加価値の高い企業への戦略的な誘致に注力します。また、新製品による経済効果を期待し、ユニークで先進的な市内の企業、農業、教育・研究機関の連携も進めます。

農業は、大都市近郊という立地的な特徴の他、景観や環境面からも重要であり、持続可能性の確保を促進していきます。

77 【交流人口】通勤・通学、買い物、レジャー等の目的で、その土地を訪れる人の数

## (2) 目標達成に向けた主な実施手段の体系

(1)に掲げた全体的な方向性を踏まえ、基本構想に掲げる将来都市像や基本的な目標（重点目標）の達成に向けた実現手段として、具体的には次のような施策・取組・事業に注力していきます。体系図中、特に重点的に取り組むものを濃色にしています。

図表35 目標達成に向けた主な実施手段の体系（経済・活力）

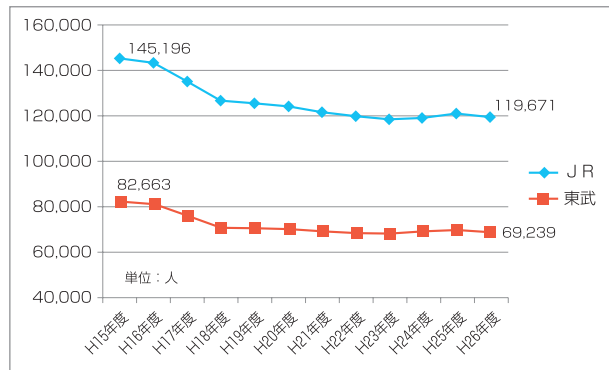
目指す方向性	施策	取組	事業
★人を呼び込み賑わいのあるまちをつくる ★魅力ある産業が活躍するまちをつくる	3-1. 魅力・吸引力の維持・強化	1 新たな魅力を持った中心市街地の実現	1 快適に歩いて過ごせるまちづくりの推進
			2 公民学連携によるまちづくりの推進
			3 中心市街地における再開発の推進
			4 中心市街地活性化事業の推進
			5 柏駅舎改修と機能強化の推進
			6 柏駅前広場の機能充実化
			7 広域交流スペースの検討
			8 にぎわいを創出するイベントの支援
		2 北部地域の魅力創出・向上	1 UDCKを中心とするエリアマネジメントの展開
	2 柏の葉ブランドの確立		
	3 まちづくり検討協議会の開催		
	4 区画整理除外区域の整備		
	5 市有地の有効活用		
	3 手賀沼・東部地域の資源活用	1 スポーツ、自然、体験をキーワードにした観光推進	
	2 「農と食」総合戦略の展開		
3-2. 魅力ある産業の活躍	1 戦略的な企業誘致	1 付加価値の高い産業の誘致	
	2 産業用地関連情報の発信	2 産業用地関連情報の発信	
	2 生産・販売力向上への支援	1 産業間連携コーディネーターの育成	
	2 創業支援の推進		
	3 企業ニーズに合わせた融資制度の導入		
	3 地域で支える持続可能な農業づくり	1 生産・経営の拡大	
	2 営農環境と社会的機能の維持		
3 柏農業の販売促進（ブランディング）			
4 きめ細かな就業支援	1 関係機関との連携		
2 ニーズに応じた就業支援			
5 身近な商業等の活性化	1 商店会支援の推進		
2 卸売市場の活性化			

## 施策 3-1 魅力・吸引力の維持・強化

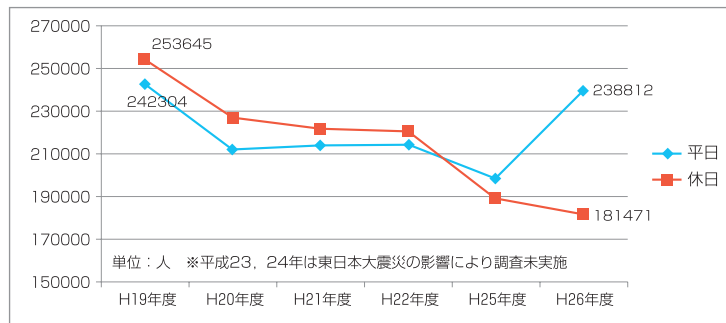
### ◎ 当該施策の現状分析（課題把握）

- 柏駅前の百貨店をはじめとする中心市街地の活力により、千葉県北西部、鉄道沿線の商業中心地として発展してきましたが、近郊に大型商業施設が開設され、また人口減少や少子高齢化の進展に伴って、吸引力の低下等が見受けられます。
- 中心市街地の吸引力の低下等により、地域経済の縮小や活力の減衰が進むと、「来街者等の減少⇒店舗の撤退⇒駅周辺の魅力減少⇒まちの衰退」や「柏市のイメージダウン⇒人口減⇒税収減・財政難⇒都市の財政破綻」という悪化シナリオの進行等も懸念されます。
- 中心市街地がこれからも柏の顔となり、活力を維持・向上させていくためには、対策を立て、取組を推進する体制が必要となりますが、地権者や事業者、商店主、行政等関係者の連携が不十分な状況です。
- さらに、一層の地域経済の活性化を進めていくためには、柏駅周辺の中心市街地、柏の葉キャンパス駅を中心とする新しいまち、手賀沼をはじめとする東部地域の自然・歴史的資源等を“点”としてではなく“面”としての視点で捉え、市内外の人を呼び込む取組が必要です。

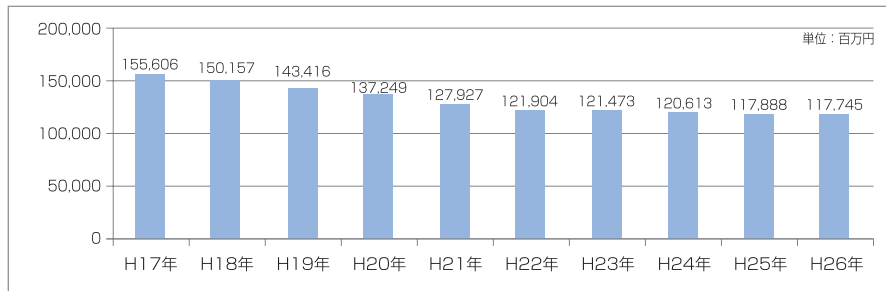
図表36 柏駅の1日あたりの乗車人員（資料）交通政策課



図表37 柏駅周辺の歩行者通行量（資料）中心市街地整備課

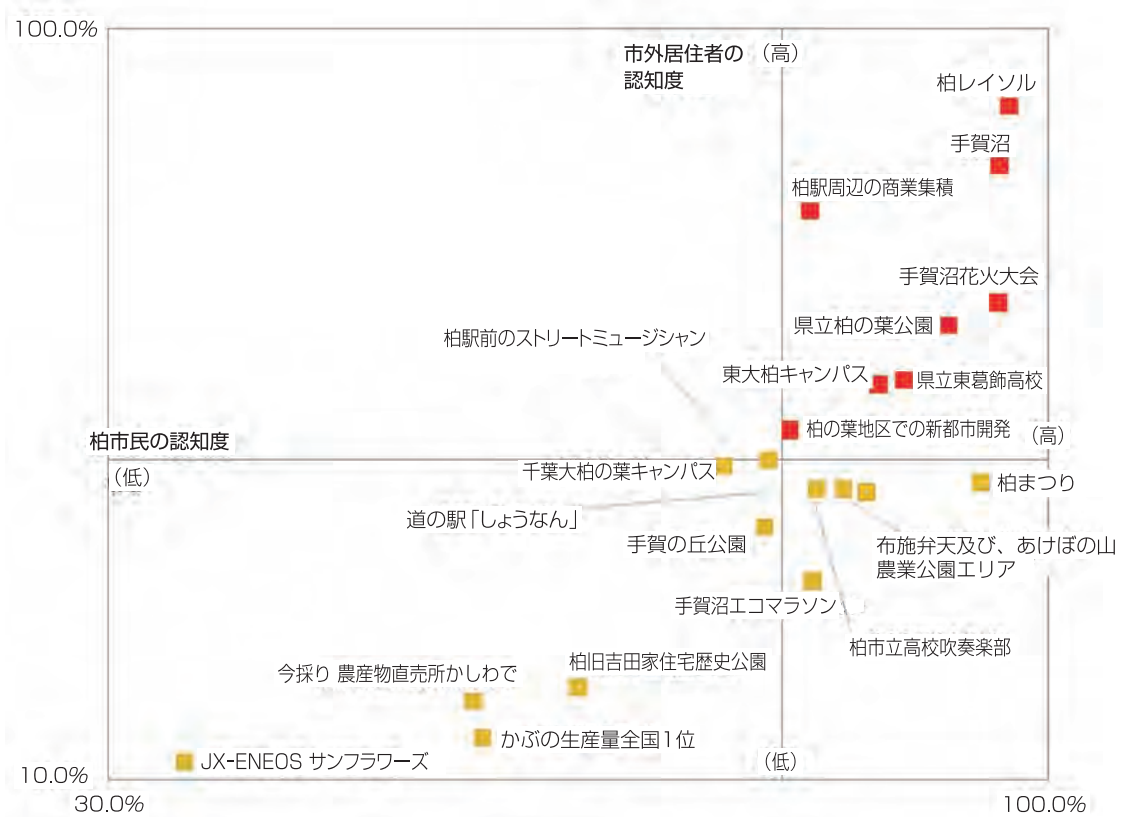


図表38 中心市街地の百貨店等の販売額 (資料) 商工振興課



調査対象：中心市街地内大型小売店舗

図表38 柏市の地域資源の認知度 (資料) 平成26年度柏シティプロモーションに係る基礎調査



🌀 施策の実現によって目指す市の姿 (施策の方針)

市民や民間企業、教育・研究機関、行政等が協力しながらまちづくりに取り組んだ結果、中心市街地には多くの人々が訪れ、居住者も増え、長く滞在したくなる魅力あふれる空間が作られています。

また、柏駅周辺の中心市街地や柏の葉キャンパス駅を中心とした新しいまち、手賀沼をはじめとする魅力的な地域資源を活かした東部地域等は、市内外から訪れる多くの人々にぎわっていて、千葉県北西部の中心的都市として活力が維持、向上されています。

● 施策実現のため、重点的に推進する取組

1 新たな魅力を持った中心市街地の実現

取組内容	中心市街地への来街者が増え、滞在時間が延びるよう、多くの人を訪れ、安心して快適に過ごすことができるまちづくりを進めます。
重点事業 (実現手段)	1 快適に歩いて過ごせるまちづくりの推進 (87ページ) 2 公民学連携によるまちづくりの推進 (88ページ) 3 中心市街地における再開発の推進 (88ページ)

2 北部地域の魅力創出・向上

取組内容	定住人口及び就業人口の増加を図るため、公・民・学の連携を活かし、暮らしの質と地域の活力を持続・向上させるまちづくりを進めます。
重点事業 (実現手段)	1 UDCK <sup>78</sup> を中心とするエリアマネジメント <sup>79</sup> の展開 (89ページ) 2 柏の葉ブランドの確立 (89ページ)

3 手賀沼・東部地域の資源活用

取組内容	手賀沼と東部地域への交流人口を増やすため、手賀沼と東部地域の地域資源をレジャー等の観光に活用します。
重点事業 (実現手段)	1 スポーツ、自然、体験をキーワードにした観光推進 (89ページ) 2 「農と食」総合戦略の展開 (90ページ)

● その他の取組

※無し

● 関連する部門計画

計画名	関連する取組
柏駅周辺まちづくり10ヵ年計画	1
柏市中心市街地活性化基本計画	1
地区再生計画	1
柏市観光基本計画	1・2・3
柏の葉国際キャンパスタウン構想	2
柏市都市農業活性化計画	3

78 【UDCK】平成18年に設立された柏の葉アーバンデザインセンターの略称。公、民、学の7つの構成団体で共同運営される柏の葉地域のまちづくり団体

79 【エリアマネジメント】住民、事業者、地権者等による自律的な地域管理の取組。主な事例として、地域美化や良好な街並み景観の形成・維持、地域コミュニティづくり、イベント開催等の地域プロモーション活動がある

第1章  
第2章 未来  
第2章 サポート  
第2章 健康  
第2章 経済  
第2章 地域  
第2章 環境・社会  
第2章 安全  
第2章 マネジメント  
第3章

● 進捗を測る指標

取組	指標	基準値	目指す方向性	備考
1	歩行者通行量及び通行範囲	平日 312,030人 休日 230,701人 (平成25年度28地点の合計値)	↗	
2	柏北部中央地区、東地区及び大室東地区の定住人口	10,515人 (平成27年10月1日値)	↗	
3	手賀沼周辺観光客数	1,387,535人 (平成26年値)	↗	

🍷 取組1の重点事業の概要

1 快適に歩いて過ごせるまちづくりの推進

担当課	中心市街地整備課					
事業内容	歩きやすい空間のネットワーク化を実現し、来街者が快適に過ごせるようにするため、駅周辺道路の整備及び歩行者優先化を推進します。					
5年間のロードマップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	東口の歩行者最優先の空間形成	東口駅前広場・ハウディーモール・サンサン通り実施	東口駅前広場・ハウディーモール・サンサン通り実施			
	西口あさひふれあい通りの空間形成	あさひふれあい通り実施	あさひふれあい通り実施			
	歩行者系都市計画道路 <sup>80</sup> の整備	中通り線・南通り線・旧水戸街道整備	中通り線整備	元町通り線・中通り線整備	元町通り線・中通り線整備	元町通り線・中通り線整備
	6国(国道6号線)プロジェクト <sup>81</sup> の推進	地域連携事業実施	地域連携事業実施	地域連携事業実施		
備考						

80 【歩行者系都市計画道路】歩行者の安全性、快適性や利便性を確保した歩行者と車が共存する道路を指す造語

81 【6国(国道6号線)プロジェクト】柏駅西口周辺地区におけるまちづくりを推進するために、地域住民や商工関係者、学校、道路管理者(国)、市等が協力して、国道6号線の歩行者空間を中心とした活用や維持管理活動、整備等を行っている取組

2 公民学連携によるまちづくりの推進

担当課	中心市街地整備課					
事業内容	市民や民間企業，教育・研究機関，行政等の各関係者が将来の中心市街地のあり方について共通認識を持ち，協力しながら魅力あるまちをつくるため，公・民・学の連携体制を構築し，安全で快適な都市環境の形成，集客力の向上，地域経済の活性化及び生活文化の創造等の活動を行います。					
5年間のロードマップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	体制の構築・強化のための運営戦略会議	月1回 (年10回)	月1回 (年10回)	月1回 (年10回)		
	事業関係者連携会議	月1回 (年10回)	月1回 (年10回)	月1回 (年10回)	月1回 (年10回)	月1回 (年10回)
	組織支援	連携事業実施	連携事業実施	連携事業実施	連携事業実施	連携事業実施
	来街者状況の把握分析	最低年2回実施(平日・休日)	最低年2回実施(平日・休日)	最低年2回実施(平日・休日)	最低年2回実施(平日・休日)	最低年2回実施(平日・休日)
備考						

3 中心市街地における再開発の推進

担当課	中心市街地整備課					
事業内容	中心市街地における交流人口増加や定住促進を図り，将来の活力をより効果的に維持・向上させるため，商業・オフィス・医療・文化等の様々な機能の集積や，エネルギーマネジメント <sup>82</sup> 等環境にも配慮した持続可能なまちを目指します。					
5年間のロードマップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	西口北地区組合 <sup>83</sup> 等会議	月1回開催	月2回開催	月2回開催	月2回開催	月2回開催
	西口北地区組合等支援	実施	実施	実施	実施	実施
	現地事務所の開設	設置	事業支援実施	事業支援実施	事業支援実施	事業支援実施
備考						

82 【エネルギーマネジメント】地域の再生可能・未利用エネルギーや資源を効率的に利用するため，エネルギー需要の異なる建物間で融通することで最適利用を図り，エネルギーの地産地消を行うこと

83 【西口北地区組合】都市再開発法に基づく柏駅西口北地区の市街地再開発事業についての計画検討及び事業を実施する関係権利者で組織される団体

取組2の重点事業の概要

1 UDCKを中心とするエリアマネジメントの展開

担当課	企画調整課					
事業内容	地域の住民や企業が主体となって、地域の安全や快適性の向上、健康で楽しく暮らし続けられるコミュニティを形成するため、UDCKを中心とするエリアマネジメントに取り組み、住む人や働く人が主体の自律的なまちづくりを推進します。					
5年間のロードマップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	まちづくり推進のための戦略会議	月1回開催	月1回開催	月1回開催	月1回開催	月1回開催
	プロジェクト関係者連携会議	月1回開催	月1回開催	月1回開催	月1回開催	月1回開催
備考						

2 柏の葉ブランドの確立

担当課	北部整備課					
事業内容	人々が住みたい・働きたいと思うまち、企業に選ばれるまちをつくるため、質の高い都市空間を醸成し、柏の葉が「先端企業が集まるまち」、「職住近接が実現できるまち」というイメージを確立します。					
5年間のロードマップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	ブランド力向上検討	行動計画策定	実行	実行	実行	実行
	空間デザイン部会	年2回	年2回	年2回	年2回	年2回
	PR活動	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回
備考						

取組3の重点事業の概要

1 スポーツ、自然、体験をキーワードにした観光推進

担当課	商工振興課,農政課,環境政策課,都市計画課,公園緑政課,文化課,スポーツ課					
事業内容	スポーツ・自然・農業・歴史文化等のイベントや観光を通じて、手賀沼と東部地域の地域資源や魅力をより活かすため、整備と情報発信を行います。					
5年間のロードマップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	手賀沼等地域資源の環境整備	実施	実施	実施	実施	実施
	手賀沼流域関係団体との連携	実施	実施	実施	実施	実施
備考						



2 「農と食」総合戦略の展開

担当課	農政課					
事業内容	生活環境と密接な「農と食」に対する理解と魅力を高めていくため、柏に農業があるメリットを活かし、飲食関連とネットワークづくりを図ります。					
5年間のロードマップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	手賀沼アグリビジネスパーク事業 <sup>84</sup> の推進	協議会会議事業化	協議会会議事業化	協議会会議事業化	協議会会議事業化	協議会会議事業化
	食品産業と連携した共販作物のブランド化	年1品	年1品	年2品	年2品	年2品
	柏農業の支え手(市民・消費者)の育成	食育講座料理教室交流会	食育講座料理教室交流会	食育講座料理教室交流会	食育講座料理教室交流会	食育講座料理教室交流会
備考						

84 【手賀沼アグリビジネスパーク事業】農業・観光・レクリエーションの振興を目指して、手賀沼周辺地域の既存施設のネットワーク化による一大交流拠点づくりを進めるもの

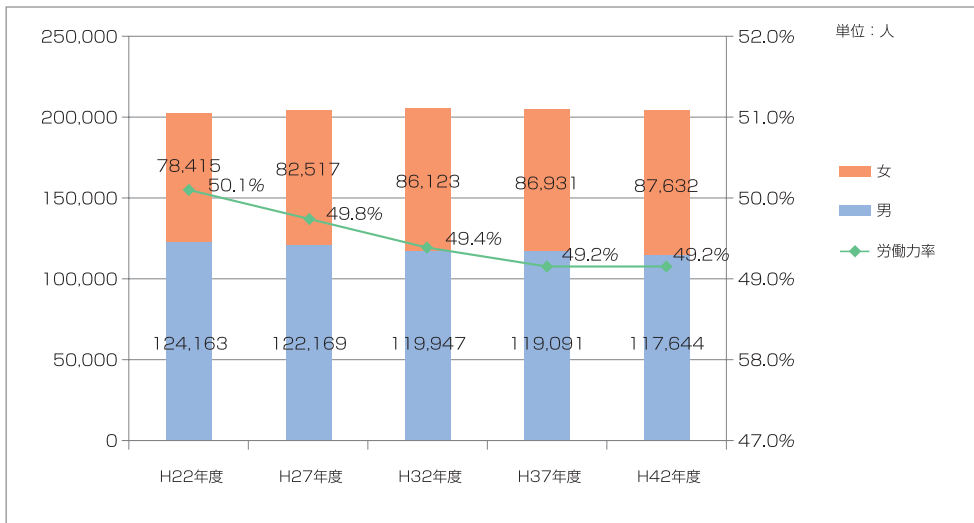
第1章  
第2章 未来  
第2章 サポート  
第2章 健康・サポ  
第2章 経済  
第2章 地域  
第2章 社会基盤  
第2章 安全・安心  
第2章 マネジメント  
第3章

## 施策 3-2 魅力ある産業の活躍

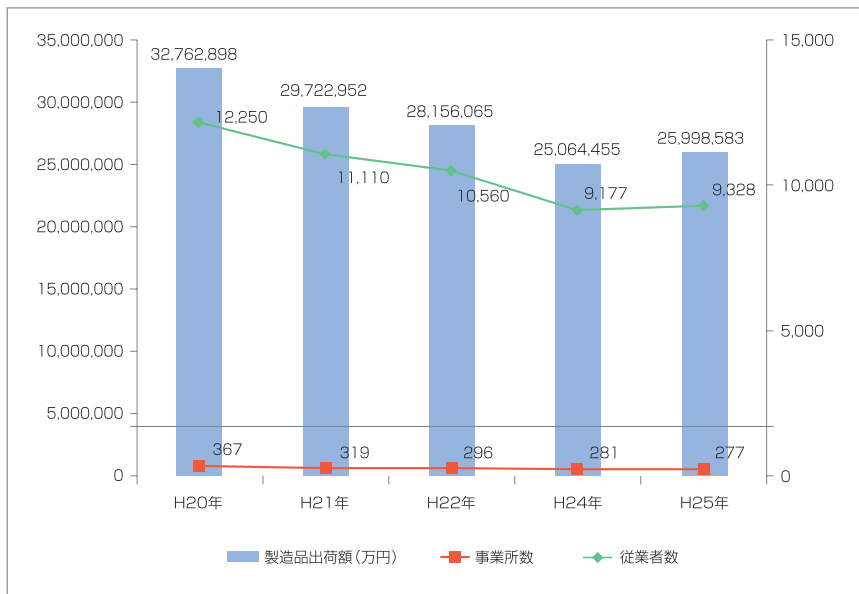
### ◎ 当該施策の現状分析（課題把握）

- 市の人口は平成32年から37年にかけてピークを迎え、その後は減少に転じるものと予測されており、さらに年少人口と生産年齢人口が減少する一方、老年人口は増加が続き、市税収入の減少や社会保障費の増加が懸念されます。
- このような状況を踏まえ、財源確保策の推進が必要となっており、その一つとして産業の活性化により、地域の活力を高め雇用を生み、税収の向上を図ること等が考えられます。
- しかし、市の産業全体の状況としては製造品出荷額が減少し、事業所数や従業員数も減少傾向にあるため、結果として法人市民税や固定資産税の減収につながっています。
- この状況の改善として生産力を高めることが重要であり、そのためにも事業の選択と集中や、地域の活性化に効果的な業種・分野の絞込み等の戦略的な取組が必要です。
- 農業では、柏市は都市近郊にありながら、米をはじめ様々な野菜や果物が盛んに生産され、特に、かぶ、ねぎ、ほうれん草は全国でも有数の産地となっています。
- しかし、全国的な農業の状況と同様、農業者の後継者不足に伴い、農家数及び農業就業人口の減少が続いており、農業者の高齢化及び担い手不足が深刻化しています。
- さらに、農産物の取引価格が低落の傾向にあり、燃料や農業資材価格の高騰等の影響もあって農業販売額の低迷と農業収入の減少が続いており、農業経営が厳しくなっています。
- 農地の有効活用と保全が適正に行われてない耕作放棄地が増加し、農業用水施設の水路や排水設備等の老朽化も進んでいます。

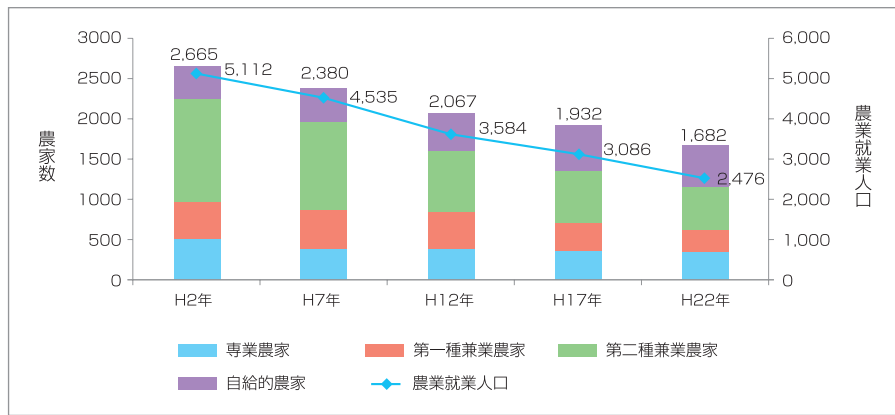
図表40 労働力人口の予測 (資料)企画調整課



図表41 製造品出荷額等,事業所数及び従業員数(工業)の推移 (資料)柏市統計書



図表42 農家数及び農業就業人口の推移 (資料)農政課



🌀 施策の実現によって目指す市の姿 (施策の方針)

地域の資源、特性を活用した戦略的な企業誘致が進められ、企業の立地先として柏市の北部地域等が注目を浴びています。また、産業間の連携によって新たな商品・サービスが開発されたり、地域の特徴を活かした農業が営まれる等産業全体が活性化しはじめていて、働く人も増えています。

🎯 施策実現のため、重点的に推進する取組

1 戦略的な企業誘致

取組内容	税収の向上に寄与する新たな企業を呼び込むため、付加価値の高い産業をピックアップし、ターゲットを絞り込んだ誘致活動を行います。
重点事業 (実現手段)	1 付加価値の高い産業の誘致 (95ページ)

2 生産・販売力向上への支援

取組内容	市内の事業所が生産力や販売力を向上するため、幅広い市内の事業所の現状に関する情報と、国・県等の支援情報を有機的に絡めた支援や市内で創業を目指す起業家の支援を行います。
重点事業 (実現手段)	1 産業間連携コーディネーター <sup>85</sup> の育成 (95ページ)

85 【産業間連携コーディネーター】最先端技術の創造や新しい商品開発をするために、事業に必要な情報の提供や既存の企業同士の技術又は人材を結び、販路拡大や新たなビジネスを生み出すための一連の支援を行う者

3 地域で支える持続可能な農業づくり

取組内容	農業を所得的に魅力ある産業とするため、農業の経営力・生産力を高め、地産地消や消費拡大を図ります。
重点事業 (実現手段)	1 生産・経営の拡大 (96ページ) 2 営農環境と社会的機能の維持 (96ページ) 3 柏農業の販売促進 (ブランディング <sup>86</sup> ) (97ページ)

● その他の取組

取組名	4 きめ細かな就業支援 5 身近な商業等の活性化
-----	-----------------------------

● 関連する部門計画

計画名	関連する取組
柏市産業振興戦略プラン	1・2・3・4
柏市都市農業活性化計画	3
柏市農業振興地域整備計画	3

● 進捗を測る指標

取組	指標	基準値	目指す方向性	備考
1	誘致企業数	0	↗	
2	企業間連携のマッチング成功件数	9件 (平成26年度値)	↗	
2	市の支援により企業が創業した数	20社 (平成27年10月 末までの実績値)	↗	
4	農産物の市場出荷額	平成27年度値	↗	

86 【ブランディング】 ターゲットとする顧客を明確化し、ブランドに込める地域や商品の価値を伝えていくこと

第1章  
第2章 未来  
第2章 健康・サポート  
第2章 経済  
第2章 地域  
第2章 環境・社会基盤  
第2章 安全・安心  
第2章 マネジメント  
第3章

取組1の重点事業の概要

1 付加価値の高い産業の誘致

担当課	商工振興課					
事業内容	研究所やハイテク工場等の税収面や雇用面等で優位な企業を誘致するため、地域の強み等を活かした戦略的な誘致活動を行います。					
5年間のロードマップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	誘致活動実施	月2回 (年24回)	月2回 (年24回)	月2回 (年24回)	月2回 (年24回)	月2回 (年24回)
	土地の情報や企業の進出動向の調査・分析	随時	随時	随時	随時	随時
	関係機関との情報交換会の開催	年2回開催	年2回開催	年2回開催	年2回開催	年2回開催
	企業誘致展示会への出展	年1回出展	年1回出展	年1回出展	年1回出展	年1回出展
備考						

取組2の重点事業の概要

1 産業間連携コーディネーターの育成

担当課	商工振興課					
事業内容	産業間の連携を進め新たな商品・サービスを生む等、企業の生産力向上を図るため、企業や個人をマッチングし、新規サービス・事業を生む人材を育成します。					
5年間のロードマップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	人材育成研修(各分野の基礎知識等)	月1回	月1回	月1回	月1回	月1回
	他機関との連携(人脈づくり)	適宜研修や活動に参加	適宜研修や活動に参加	適宜研修や活動に参加	適宜研修や活動に参加	適宜研修や活動に参加
備考						

## 取組3の重点事業の概要

### 1 生産・経営の拡大

担当課	農政課					
事業内容	農産物の高付加価値化や農家の経営力・生産力を高めるため、農地の生産性の向上と経営力の強化を支援します。					
5年間のロードマップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	農商工連携の検討会・新商品開発研究	検討会 年6回	検討会 年6回	研究会 年3回	商品化	商品化
	6次産業化 <sup>87</sup> 研修会	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回
	経営相談窓口の開設	年4回	年4回	年6回	年6回	年6回
	中心経営体 <sup>88</sup> への農地集積	座談会 年8回	座談会 年8回	座談会 年10回	座談会 年10回	座談会 年12回
備考						

### 2 営農環境と社会的機能の維持

担当課	農政課					
事業内容	農地・農業が環境に貢献し、農業の役割と理解の促進を図るため、環境に配慮した農業や農地の多面的利用の推進を図ります。					
5年間のロードマップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	適正農業規範 <sup>89</sup> の推進	講習会 年2回	講習会 年2回	講習会 年3回	講習会 年3回	講習会 年3回
	農業理解の促進	交流会 年2回	交流会 年2回	交流会 年2回	交流会 年2回	交流会 年2回
備考						

87 【6次産業化】一次産業としての農林漁業と、二次産業としての製造業、三次産業としての小売業等の事業との総合的かつ一体的な推進を図り、地域資源を活用した新たな付加価値を生み出すこと

88 【中心経営体】地域や集落の中心的な存在となって、地域農業の担い手となる農業者

89 【適正農業規範】農業において、ある一定の成果を得ることを目的として実施すべき手法や手順等をまとめたもの

3 柏農業の販売促進（ブランディング）

担当課	農政課					
事業内容	生産者・農産物と消費者の信頼関係構築と交流機会を消費拡大につなぎ、農業を魅力ある産業とするため、市内交流拠点である道の駅しょうなんの機能強化やあけぼの山農業公園の農業振興に向けた活用等を行います。					
5年間のロードマップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	道の駅再整備の検討会	年6回	年6回	年6回	年3回	年3回
	道の駅再整備	基本・実施設計・用地買収・造成	施設整備	施設整備	リニューアル	—
	あけぼの山農業公園検討会	年6回	年6回	年6回	年6回	年6回
備考						

第1章

第2章  
未来  
ことば

第2章  
健康・  
サポ  
ート

第2章  
経済  
活力

第2章  
地域  
のち  
から

第2章  
環境・  
社会  
基盤

第2章  
安全・  
安心

第2章  
メン  
ト

第3章